

第3期 瀬谷区地域福祉保健計画策定委員会 第2回議事録

日時	平成26年11月6日(木) 午後2時から4時まで
場所	二ツ橋ケアプラザ 多目的室
出席者	名和田氏、岡田氏、川口氏、辻村氏、諸橋氏、奥津氏、網代氏、清水氏、福田氏、森谷氏、高橋氏、土居氏、岸本氏、杉野氏、米倉氏、伊藤氏、 北井氏、中野氏、宮原氏、瀧澤氏、宮田、板坂 (22名)
欠席者	山口氏、永嶋氏、大塚氏
	<p><b>1. 第2回策定懇談会の進め方</b></p> <p>事務局(藤澤課長) 全域計画に関しては来年の1月29日までに骨子案まで示したいので、本日は骨子案に向けての議論をいただきたい。地区別計画策定指針は次回に原案を提示したいので、本日は踏み込んだ議論をしていただきたい。</p> <p><b>2. 第1回地域福祉保健計画策定懇談会の振り返り (資料1)</b></p> <p>◇事務局から説明があったように、全域計画は次回に骨子案、策定指針は次回に原案の検討をすることになるので、本日はそのことを踏まえた話し合いをしたい。</p> <p><b>3. 全域計画について (資料2)</b></p> <p>事務局から前回の出された意見をまとめた全域計画について説明がされた。</p> <p>◇事務局案には、ざっくりとした柱のようなものが書かれている。気づいたところからご意見をいただきたい。</p> <p>◇ヘルスマイトは「食生活」「運動」「休養」の3つに取り組む活動を行っている。</p> <p>先日の瀬谷フェスティバルの際には塩分の摂取量、野菜の摂取量、ロコモ*など体験を通じた啓発を行った。</p> <p>他にも、地区センターでロコモの勉強と塩分少なめの食事作りを企画している。</p> <p>ヘルスマイトは地区での活動にも取り組んでいるので気軽に声をかけてほしい。</p> <p>(ロコモ*: 運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態)</p> <p>◇前回、地区別計画で食が大事だという発言がある(資料4)ので、全域計画の方にも食のこを入れた方がよい。若いお母さん対象の活動があるということで、(資料2)の全域計画に盛り込む項目④の「若いお母さんと地域のつながりが弱まっている」というところで、特に食という面でつながりがあると入りやすいかと思う。</p> <p>全域計画で数値的な指標を点検してみるとよいと思った。前回の皆さんの意見からは健診受</p>

診率の指標がでていたが、いろいろな指標をあげて全域計画に結びつく話だったと思う。

◇自治会や地域の活動と一緒に活動をしてもらうことでいろいろなことを学んでもらい相互に理解が広がっている。諦めることなくやることが大事だと思う。

健診の受診率が低いことは、大変な問題だが、なぜ低いのかについての分析はされていないようなので、それをしっかりつきとめて解決策を考えるのが大事だと思う。

以前、二ツ橋公園で、障害のある方々が主役になるお祭りをするイベントがあり、障害のあるもそうでない方もふれあう機会があった。それぞれの地区で取組を行っているが、障害のある方への理解の研修会も大事だと思う。

学校と地域と一緒に活動している取組もあるが、十分に連携が進んではいないように思う。校長会の場合などを利用して、相互理解を深めることができるとよい。学校が地域で活動している団体との交流を図ることでお互いに理解し繋がれると思う。

◇学校としても、「地域の中の子ども達」と考えているので、一緒に取り組みたいと考えている。

◇全国的にも改めて学校と地域との結びつきを強めるようにといて、学校協議会などの様々な仕組みを打ち出して連携しようとする流れがある。

◇小学校に進学するお子さんを抱えたお母さんからの相談で、障害のある弟がいるので、登下校の見守りの当番が多くある学校でやっていけるのか悩んでいるという相談を受けた。

お母さんとの交流のためにやっていることでないのなら、地域の方をお願いしてもよいのかと思ったが、学校が地域に頼むと事故があった時に困るし、迷惑を掛けてはいけないと思うから声に出しにくいようだ。しかし、相談してみれば案外解決に繋がることがあるように思う。

◇PTAに事情を話せば解決していけるので、学校長なりPTAに話してもらいたい。

◇支援をして欲しいと言える地域づくりが前回も話に出たが、当事者は迷惑をかけたくないという気持ちがあるという非常に実践的な事例だと思う。地域で受け止めるべきであり、当事者も気軽にお願いできる体制があるとよい。

◇三ツ境地区ではPTAの見守りとは別に地域独自で登下校の見守りを行っている。学校からも感謝されている。

◇三ツ境地区は昔から学校と地域が結びついていると聞いている。大阪の池田小学校で大きな事件があり、横浜市は全部の学校で学園隊に取り組むため市の予算が下り、学園隊の組織化が義務づけられた。今までやっていたところと結びついたところもある。保護者がそれ以外に横断歩道の旗振り当番などをやっているところもあり、その回数も学校によって違う。

◇高齢者だけの世帯や寝たきりの方がいる世帯の方から、班長や組長が回ってきても引き受けられないことを理由に、自治会を脱退したいというケースが増えてきた。そういった方こそ、地域の中で見守らなくてはならないと思う。

無理のない小さい範囲の見守りができることが重要。地域の中の人とのつながりができ、地域の小さい問題を顔の見える関係で取り込めれば、困ったことも声が出せるようになってくるだろうと思う。小さいお子さんを持っているお母さんは大きな単位のところでは「助けて」と言えないので、言えるような小さなつながりを作ることがこの地域福祉保健計画で大事だと思う。

◇班長が地域を訪ねるということも大事であり地域力につながる。

班長さんが訪ねていける地域に育てる。計画には「地域が」と書くが現実には「一人一人が」である。「地域力」というが、1期のところから言葉が出ている。

勇気をもって学校と交渉ということができない人にとってはまずは地域から。

◇顔の見える関係づくりから始める地域の見守り防災～事業事業は、防災のためなのか、地域が結びついて暮らしやすくするためなのか。一つの目標に両方入っているように見える。地域福祉保健計画なので、地域作りができていることによって災害時の有効な助け合いにつながるといことがわかるような形で計画を作るとよい。防災は別立てで考えた方がよいと思う。前の会議で「地区支援チームは何をするのか」と聞いたが、地区支援チームが防災に対して支援をするのか地域づくりについて支援をするのか明確に目標が二つになっていけば計画自体が有効的にまとまるのではないかと思う。

もうひとつは、瀬谷区は「農業がある地域」だというのが特色。それを食育、地産地消、健康づくりなどと絡め、瀬谷区の特徴として計画に盛り込まれると良い。

◇全域計画で、瀬谷区らしさを打ち出したい。その時、『農』の話が大きいと思う。「何らかの形で『農』に関わることで健康になる」とか、「引っ込んでいた男性高齢者が『農』に関して関心をもって外に出る」等、デイサービスで農に関する事をやっている事例もあるので、『農』に関わることを、健康でもなんでもいから絡めて出したらよい。

外国籍の国籍を持つ方とのつながりのことを全域計画に盛り込むと取組が広がると思う。

前回の施設の方の話で、施設は地域と繋がりたいと思っているが、どうやって地域と話したらよいのかという話がでた。区内にある高齢・障害・子どもの施設の地域とのつながりの在り方についてどのように書いたらよいか、ネットワークに書けばよいか、大きいところで入れておきたいと思う。

◇「支援をして欲しいと言える地域と当事者」について、そこから発展して防災が付いてくるとい話があったが、多くの方がうなずいていたのでその通りだと思う。もちろん防災は大事なのでどこかに入るが、瀬谷区地福計画の10年間の流れの中に「見守り～防災」という経緯がある。その辺りを第3期の入り口でわかりやすく整理していただくといことなのかもしれないが、事務局はどのようにお考えか。

事務局 顔の見える関係づくりは、向こう三軒両隣、10世帯位でやること。伊藤氏が言われた防災時も地域力で解決できるというのはその通りなので整理したい。

防災は平成17年に災害時要援護者の話がでて、地域で要援護者を把握する時、地域の担い手の皆さんに防災時に支援ができるようにと防災の切り口から入っていった経緯がある。

見守りから防災までの細かい範囲での関係づくりがベースになっている。自助・共助の一番の基礎になるのでしっかりと押さえていきたい。

◇「見守り～防災」は、瀬谷区なりの進め方に皆さんの理解があるので、第3期の計画にわかりやすい書き方にしてもらいたい。

施設と地域のつながりは大事で全市計画では学校と企業がでたが、専門の施設は、施設にもよるがあまり地域とのつながりを持っていないところが多い。地域ケアプラザは最初から地域のために作ったものである。

◇瀬谷区では、地域と施設が消防協定を結んでいたり、施設の運営推進会議に地域の民生委員や

地区社協が入り、施設の人との話しあいが行われている。そういったことで施設と地域のつながりについて瀬谷は進んでいると自負している。

地域と支援チームとの結びつきが強くなり有り難いと思っている。縦割りを打破する上で、その壁を乗り越えて地域に入っただき、今度は区役所の施策には入っているのかと思っている。

認知症キャラバンメイトで、認知症講座をやっているが認知症は世界的規模の問題になりつつある。サポーター養成講座は地域づくりのため、慣れ親しんだ地域にいつまでも住んでいられるまちづくりをしたいと子ども達に教えたり話したりしている。子ども達も応えてオレンジリングをはめてくれている。区役所から声をかけているようだが学校によりやっていない学校もある。できれば全区に進むと良い。認知症サポーターは大きなまちづくりの柱となっている。

南瀬谷の中学校の地域交流学習会では、3～4時間目に地域の掃除をし、一緒にお昼を食べ、午後から27項目の講座に分かれて地域の人が先生になり異世代交流をやった。そのような交流から将来大人になる中学生が地域の見守りに通じてくれると思った。

◇先ほど岡田先生の話の中で、『農』という切り口で健康づくりに取り上げて瀬谷らしい計画にならないかということがあった。

また、地区支援チームの構成や役割・機能をより充実させるということについては、地区支援チームとして、様々な部署の職員も地域に入り成功するということはすごいことだと思う。これを充実させていく方向は継続していくべきだと思う。

◇健康寿命日本一を目指す横浜市は言っているが、健康診断受診率が低すぎる。是非これを上げたい20%～30%といわず80%位になってほしい。

通知は全員に出しているらしいが、地区別、誕生月別になど、送り方等工夫をしてPRしたらよい。せっかく全員に出すのなら受診率の向上を具体的に工夫したらよい。

健康寿命でウォーキング事業を進めているが、是非、地域全体で進められるように、朝、皆が「おはよう」と歩くことが定着するように11月1日に地区社協と保健活動推進員と自治会が共催でウォーキングと「パークで筋トレ」をやった。地域全体で取り組めるような、誰でも出来るウォーキングをツールにして健康長寿日本一を具体的にやっていけるようお願いしたい。

◇前回の目標の中に「若い人」「若いお母さん方」という言葉がたくさん出ている。

不安を感じている方のために地域が子育て世代と向き合うシステムや区福祉保健センターや学校に相談しに行く前に、いかに地域の中で受け止めるシステムがあるとよい。高齢者は民生委員の訪問や友愛活動などがあるように、子育て世代も地域にむきあう瀬谷区の中でどう地域に巻き込んでいくかをこの全域計画で謳っていけると地区別でも解決していけるのではないかと思う。まさに顔の見える関係のところの支援のネットワークづくりもあるが、そこに向き合う形も必要だと思う。

瀬谷のために立てる計画には瀬谷の子育てをどう考えていくかも必要だと思う。

特に妊娠出産と、小学校入学時は区役所でも係わっているのもその後も継続した支援があるとよい。

◇地区センターやコミュニティスクールがある地域とない地区がある。中学生には地区センター

がよいが、三ツ境地区にはないので全区的にハードが整備できたらよいと感じる。地区の格差を感じているので改善できたらよい。

◇地区支援の担当の生活衛生課長が地区連合町内会会長会議で、地元の小学校でノロウィルスが発生していることの情報提供をしてもらったり、地元のイベントが控えていたので、教員、学校開放、文化スポーツクラブの担当にイベントの際に子どもが嘔吐した場合の指導をもらった。無事に地域のイベントを行うことができた。地区支援のチーム活動が良い方向にいつているので、この事例を示して、地区支援チームが地域と連携していると周知できる内容にして貰えると良いと思う。

神奈川県で健康寿命日本一をやっている。神奈川県は横浜市より先に、もう 10 年程になるが「1 日 30 分、週に 3 日、3 ヶ月継続してスポーツをやりましょう」という「3033 運動」をやっている。呼びかけを基礎にして皆さんに運動してください、スポーツをしてくださいとそれによって健康、いわゆる、「休養」「栄養」「体力」全てを網羅したものを神奈川県がやっているのを横浜市では、各区にそのようなキャンペーンをやっていることを PR していない。

昨日、スポーツ推進員の横浜市の定例会議があったので県に依頼をし、改めて 3033 運動を横浜市で根付くようにと話をした。11 月 1 日から神奈川県でウォーキングポイントを実施しているが、それを勧めるきっかけになる運動だと思う。神奈川県で始めたことをきっかけに横浜市でも PR したいと強調した。県がやっているからではなくよいものだったら、それを利用して動機付けとして進められればと思う。他の区の会長さんもそんな話を聞いて具体的に動きたいと言っていた。是非、瀬谷区から発信出来れば良いと思う。

日本体育協会で、「あいさつ」「握手」「応援」というキャンペーンを昨年からやっている、試合前に挨拶したり握手をしたり応援したりスポーツマンシップを盛り上げましょう、虐待やいじめの問題があるので、指導者にそのようなキャンペーンを通して撲滅していこうと話が出ている。この計画の中で、簡単な言葉でよいので何かタイトルをつけて皆さんがとつきやすい計画にしていければよいと思う。

私が地域の小学校で「いきいき中休み」をやっている、市の体育協会の提案をいただき、原小学校で 10 年近くやっている、月に 2 回金曜日 10 時 20 分～40 分に天気の良い日はグラウンドに出て遊ぼうというもので、瀬谷区では他に 4 校ほど取り組んでいる。

体育協会だけの人間で対応できないので、地域のボランティアの方をお願いしてやっている、ボランティアの方に月に 2 回 5～6 人くらいきてもらっている、地域ケアプラザと連携しカラーリングをやっている。対象の大半は高齢者だが、土曜日にやっているので原小学校の放課後クラブの子が参加している。

原中学校の文化スポーツクラブの事業で 6 年生くらいまでとソフトバレーをやっている。今はクラブ化しており、30 代～50 代の会員 30 名程度いる。毎週金曜日平均 15 名程度参加している。色々な立場の人と連携をとって皆さんもうまく考えてボランティアにしても仲間作りにしても若い方が多も何かに周知できるような体制を考えていければよいと思う。

◇この計画の話しあいの中で地域づくり、まちづくりの話だと言うことがあった⑤のハード整備についてということで、施設、保健の拠点だけでなく、幅広く施設を活用すること、例えば地域ケアプラザに来て本を読んで良いなどというようなことを考えていく必要がある。ハード面

で区民のみなさんが子どもから高齢、障害、健常を問わず安全に優しく生活できるまちというのが必要だと思うのでそれに向けて全区民と行政が取り組んでいくという考えが必要だと思う。それは福祉の観点、防災上、防犯上の視点等、皆で考え良い町にしていこうということ。

◇区計画ではハードの期待も大きいようだ。色々な世代が集まれるということで、⑤の拠点があるということにも係わるので拠点整備も重要だと思われる。

#### 4 地区別計画策定指針について（資料3・4）

事務局より地区別計画（資料3）について説明された。

◇取組体制で、「区の中に支援チームがあり各課の担当が入っている」と聞いたが、計画書に「地区社協等」ではなく「取組体制を検討しましょう」の中に区を取組方の位置づけがあった方がよいと思う。

事務局 地区支援チームについては資料3の指針の中で解説されている。「連合・地区社協等」というのは、それに関連する委嘱の委員さんや各種ボランティア団体のことを「等」と書いている。地区別計画を推進するにあたっては地区支援チームが支援することを最初に書いて、地区支援チームの構成、活動内容は冊子の③を見てくださいという書き方はできる。

◇体制作りのところに「連合や地区社協等」と書いてある。一緒になって計画に関わっている地区もあればそうでない地区もある。地区連合の会議に地区社協のメンバーが入っていない地区もあれば、様々な委嘱委員が入っている地区もあり、各地区でばらばらである。

ある自治会では、委嘱委員さんが「私達は地域のために委嘱されたのではなく、横浜市から団体のために委嘱された」と言われて困っているとき聞いた。その辺の解釈の仕方で、横浜市の委嘱委員はいくら市の委嘱委員であっても自治会から申請しているので、自治会あるいは連合の中で、一地域の一活動員として一緒にやっていくということが前提にないと、単にここで「連合と地区社協と一緒に」と言っても曖昧になってしまう。瀬谷の中で解釈が違う委員さんがいるのでいくら市の委嘱委員であっても自治会が推薦するのだから、自治会の活動と連合の活動を一緒にやるということが徹底されないと話がまとまらない。そこは各種団体のところでも意思統一が必要。

できれば委嘱委員であってもそれを活かして地域の中で、自治会活動も連合活動も一緒にやっていく方針を打ち出していかななくてはいけない。

◇全国的にも連合の役員会に民生委員が来る例も多い。地区社協やそれぞれ地域で活動している方も集うという事例も全国的にあるので、そのような事例を適宜置きながら地域活動者であるという位置づけを区役所で委嘱に際して説明するような取組が必要かもしれない。

◇それをこの中には盛り込めないかもしれないが、それを基本にしてやっていかないとだめかと思う。

◇計画を立てる段階で施設、学校、企業が入っている地区があったら教えてほしい。

うちは施設で区域は南瀬谷だが施設として地域にあまり関心がなかったことを反省している。

◇瀬谷第二地区では入っていただき、一緒に計画の策定や振り返りをやってもらっている。

先程の「連合や地区社協等」というところ、それぞれの地区の生い立ちにより開きがあると思っている。昔から委嘱役員、地域の役員の方に地域の自治会活動に入ってもらうのが当たり前

となっている。そうでない地区があるのなら、少し砕いて青指さんや保健師さん、学校、PTA等にも入ってもらった上でとした方が分かりやすい。そうすれば今まであまり入ってこられなかった施設の代表の方も今後入りますと言ってもらえるのだろう。

◇第3期市計画では「地域福祉の担い手を広げよう」というところで、とりわけ学校と企業が書いてあるが、そこだけでなく広く呼びかけて地区別計画を策定していくというプロセスが担い手を広げることになり、それが全域計画の使命だと思っている。実は私が活動している港南区の狭い意味での福祉施設の団体は呼ばれていないができた計画を見るとちゃんと入っていた。福祉施設として認識されているものをどんどん広げて参加してもらうことが大事なポイントだと思う。

◇子育て支援拠点は各区にひとつずつあり18区の施設の防災の取組調査をした時に、港北区は自治会が地区内にある大型店と協定を結んでいて、災害時には大型店から地域の避難所に食料流通してもらえるとという契約ができていますので拠点の備蓄はせずにすんでいるという話を聞いた。

町内会に属する店舗と話し合いを進める余地があるようなので、企業なり店舗がこの計画の中に入ってくることも有効だろう。

◇ここに企業とあるが、瀬谷の場合大企業はないので事業所と考えるとよいだろう。

◇連合には保育園長が来てくれる。地区社協の方には特別養護老人ホームの方が理事に入っていて毎月の会合に来てくれている。

◇どこかで取りまとめてもらえると施設としてもこちらの会に働きかけができる。入りやすい。

◇地区別計画の一定のプロセスで巻き込むべきで記載の方法を検討するとよい。

事務局 市社協の施設の分科会で取りまとめをさせていただきたいと思う。

◇取組体制でコアになる地区別計画を進める中に施設や学校が入ってくるのはなかなか難しいと思う。第1期計画の時に地区別懇談会に呼んだり、計画の中で子どもの遊び場に視点をあてた時、学校にお願いして保護者にアンケートをして取り込んだりした。そのような形で地区別計画に必要なところで巻き込んでいくべきで、広く意見をもらうというところに施設や学校やPTAが入ればよい。PTAの立場から言うとPTAだから会議にそこだけで呼ばれても全体が見えない。逆に意見を述べる場をもらえれば意見を出せる。

◇防災の関係で報告。地域と施設が防災協定を結んでいるというのが前提だが、それを結んでいると横浜市から毛布などの備蓄品の備えの支給がある。10月19日に瀬谷消防署が主催で瀬谷の高齢者施設19施設の中でネットワークを作りたいという話があり、私の施設が代表を受けてこれからどうするかが課題である。高齢者施設での防災のネットワークが始まったところである。

◇事務局の方から地域活動に関心の無い高齢者の方への参加へ向けての工夫という投げかけがあったが、何か知恵はないか。

◇ただ集まれでは集まらないので最初のきっかけ作りが大事。行ってみたいと思えるキャッチフレーズや場所を考えれば、始めて男の人等が出てきて、自分がどこの地域に属しているかがわかるころから始め、地域の情報を少しずつ会得しながらだんだん入り込みいつのまにか地域に欠かせない存在になり、それが励みとなって次から次へと人が入ってくる。

◇全域計画では、是非、瀬谷区らしい特色の出る計画にしてもらいたいとお願いしたい。瀬谷区らしさという点では、来年の6月を目途に米軍基地が返還される。そこに大きな福祉施設を作ったというハード面の声も無きにしもあらず。どのような瀬谷区らしい計画にするかである。地区別計画では地区によってばらばらで個性があってもよいが、やはり統一するようなものをきちっと挙げてもらい、その中で地区らしさが出るとよい。

## 5 愛称について（資料5）

事務局 横浜市が第3期から「よこはまえがおプラン」と愛称つけている。18区の状況は、愛称をつけていないのは4区。（神奈川区・港南区・泉区・瀬谷区）愛称があるのは、ほぼ公募で選考が多い。

◇いい愛称をつけるためには、プロセスが重要だと思う。

◇愛称はあった方が良く思う。みんなで作るという意味で、大勢での議論が大事。

長い愛称や堅い愛称はよくないので、例えば、「地域助けあいプラン」、他にも瀬谷区ではあったかトークをやっているのだから、「あったか地域づくり」等はどうか。

◇地域ごとに愛称をつけるのもよいと思う。

本郷では、「健康長寿の郷 本郷 85歳を元気に迎えよう」というテーマをけている。

◇私も愛称は付けた方が良く思う。計画の基本理念である、「みんなで作るみんなのしあわせ」にちなんで「瀬谷区みんなのしあわせプラン」はどうか。

◇私はつけなくてよいという意見。「このプランは何」といった場合、あらためて、「地域福祉保健計画」説明するようになってしまう。第2期が終わるにあたり「地域福祉保健計画」はじんわり地区に浸透しているのではないか。正統派がかえって良いのではないか。最初の期なら付けてもよいが第3期目で改めて付けるのはどうかと思う。

◇「〇〇プランは何？」と聞かれることが「こういうプランですよ」と説明できるからかえってよいのではないか。

◇愛称だけだとわからないが副題が書いてあると分かりやすいかもしれない。そのような形式的な工夫も良いかもしれない。

◇私はこの会に参加するまで、回覧板などではあったのかもしれないが、目に留まることはなかった。一般の人の目につくかどうかといったら親しみやすい名前がついていた方が開く人が多いのではないかと思う。あまりわかりにくいというのもあるので、両方の意見を取り入れて、主題と副題みたいに載せてもらえばわかりやすいと思う。

◇第3期で終わるわけではないので付けたら良いと思う。

◇副題賛成。どうせつけるのなら副題が良い。

◇私も副題に賛成。第3期のメインテーマが分かるような副題をキャッチコピーとしてつけるのがよい。第4期はまた違う副題にするように、固定にしないのがよい。

◇今日の意見を踏まえて事務局は考えてもらいたい。

## 6. その他

◇在宅療養が課題になってくるので看取りのことも話しあう必要があると思う。認知症と診断された方をどう支えていくかをもう少し真剣に考えたい。私の施設に来る人は重度の方だが、50

	<p>代で認知症と診断された方や自分の親が診断された方等の在宅の認知症を考えていきたいと思う。</p> <p>◇認知症サポート関連は地福ではなく他の課が担当しているのか。</p> <p>事務局 高齢・障害支援課がやっている。キャラバンメイトは講習を受けたサポーター。</p> <p>あとは、瀬谷区独自の「認知症医療連携の検討会」があり、早めに認知症に気付いて早く専門の医療機関につないで軽度で留める。できればその先に地域で支える仕組みづくりをしたいと考えている。</p> <p>◇主たる所管かはともかくとして、どうしても地域福祉保健計画の枠内に入って来るテーマである。今のふたつはどちらとも入る。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
次回	<p>平成27年1月29日 (木) 14時～17時 瀬谷区役所5階大会議室AB</p>